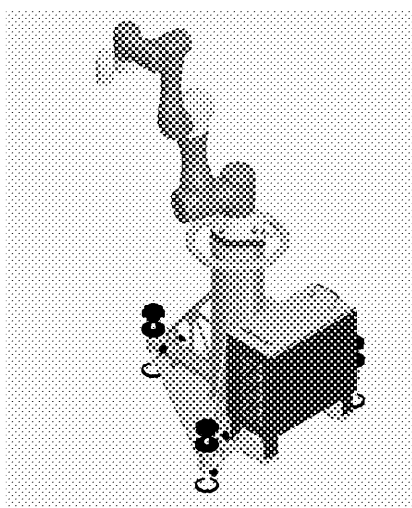


中小に協働ロボット提案

工場に合わせ動作想定

モリタアンドカンパニー 自動化支援



【名古屋】モリタアンドカンパニー（愛知県小牧市、兼広明生社長）は、協働ロボット（コボット）による生産現場の自動化を提案するコボット事業に乗り出す。現在取り扱っている産業用ロボットに加え、新たに台湾テックマンロボット（TM）製の協働ロボットを商材に追加し、人手不足問題が深刻化している中小企業の自動化ニーズに対応する。2023年12月期に同事業で売上高1億円を目指す。

モリタアンドカンパニーは、協働ロボットは産業用ロボットでは必要なた安全柵などが不要な

め、小規模の工場でも導入しやすい。また、ロボットを直接手で動かして動作を覚え込ませるタイプレクティファイニングが可能で、導入後も運用しやすいなどの利点がある。

コボット事業では、産業用ロボットのSier事業で培ったカスタマイズ（個別対応）力を生かした提案活動

を行い、「金属加工工程向け」などの架台とアーム、ハンドをセットにし、どの工場でも使える動作を想定したパッケージも用意する。

またアームを搭載する架台は自社で設計、製造し、システム全体の設計、制御、製造、営業までを同社内で行う。自動化を抑えられる。自動化を希望するものの、導入コストが障壁となっている中小製造業を中心に広く提案する。

新事業展開にあたり、7月にはパッケージ販売を担当する営業グループを新設するなど社内体制を整備した。産業用ロボットによるSier事業とコボット事業を合わせて新たな柱とし、2年以内に自動化システム提案の売上高比率を全体の50%にする計画だ。

▲台湾テックマンロボット製協働ロボットと自社製架台（イメージ）